

まちづくり市民会議 第2小委員会議事録⑤

■日 時 2008年1月15日（火） 午後6時30分～午後8時30分

■場 所 太田市役所 10階 政策推進会議室

■出席者 委員6名 西村委員長、森尻副委員長、荒井、神谷、後藤、福島
市2名 奥川、正田
※欠席委員 内田、栗原

【概要】

1. 会議の目的

- ・第2小委員会としての方向性を考えながら議論する。

2. 会議の内容（意見交換）

●ごみ問題について

- ・環境問題には、地球温暖化・大気汚染・土壌汚染・河川の汚染・食物汚染など大きな問題があるが、我々の身近なできるところから行動するのが大切である。
- ・「協働と参画」により市民と行政でできることは、「廃棄物の減量化・ごみの分別回収の実行・ごみ処理費用の削減」が考えられる。
- ・現状の問題は、市民側としては、ごみステーションのルールを守らない等個人意識の低さや、地域間の取組のバラつき、行政側としては、ミックスペーパーやその他プラなどの分別した資源の回収不足等、現実合致しないごみ政策があげられる。
- ・「出すごみを減らす」から「ごみを作らせない・販売させない」行政施策が必要である。
- ・ごみ袋の有料化は、ごみ減量に対して有効である。
- ・放置された農地・雑木林・河川や道路脇など人目に付きにくい場所に不法投棄が目立つ。
- ・市民の意識改革を進めるためにも、市はごみ処理方法や費用を詳細に公開すべきである。
- ・マイバック、マイバスケットは、割引があるなどのお得感があると利用されやすい。
- ・レジ袋は有料化されれば、マイバックの利用が増えるが、一部の店舗だけでは、ごみ減量化への効果が薄い。
- ・店舗の過剰包装もやめる必要がある。
- ・コンポストによる生ごみ処理も有効だが、悪臭を放つなど管理が難しく、利用されなくなっている。
- ・電気を使用する生ごみ処理機もあるがコストがかかるため普及していない。
- ・ディスポーザーも下水道が完備されていないと河川の汚染につながる。
- ・市街地と農村部ではごみに対する意識が違う。
- ・どうしたら官民一体でごみの減量ができるかを考える必要がある。
- ・福島県伊達温泉の旅館では、農家と契約し、旅館の残飯を農家が買い取り、家畜の餌や畑の肥料として利用し、更にその農家の農産物を旅館が買い取るという循環型のごみの再利用がされている。

- ・太田市では、バイオマスタウン構想に基づき、循環型社会への取組を計画している。
- ・企業などでは、ごみ処理に費用がかかれば、考え工夫して対策をたてる。受益者負担がごみ減量につながるのではないか。
- ・リサイクルプラザなどの処理現場の見学や、担当者を招き地域で講習会を開催するのもよい。

●自然環境問題について

- ・太陽光発電はCO₂を発生させないクリーンなエネルギーだが、設備投資に膨大な費用がかかる。
- ・城西の杜パルタウンの太陽光発電利用の実態を公表し、効果を周知するとよい。
- ・群馬県で実施している「新コツコツプラン」を積極的に導入し、実際に自分でのくらいCO₂を削減できるかが簡単にわかると取り組みやすい。
- ・他県や他市町村で取り組んでいることを調べ、できることは取り入れるとよい。
- ・苦痛になると続かないため、簡単にできることがよい。
- ・風力発電など、地域産業の発展にもつながる環境改善が必要。
- ・市全体で環境保全に取り組んでいる金山のように、他地区の自然も、地元のみの管理ではなく市全体で保全できると、市民の環境への意識改革にもなる。
- ・禁止されている野焼きや、焼却が一部で行われている。
- ・河川の改修工事や、土地利用の変化により湧水地や湧水量が減少している。
- ・人口減少時代には箱物建設をやめ、環境への取組に財源を使うべきである。

●その他

- ・伝統文化の継承として、地域の伝統行事の他に、各家庭に古くから伝わるしきたりや風習も調べ上げ、後世に伝えていけるとよい。
- ・太田市は合併により、近隣に比べ農・工・商のバランスのとれた市になったが、人口減少の時代で地域の人材＝若者を流出させないように、地元を良くしていくことが必要である。

3. 今後の進め方

- ・これまでの会議の中から、柱となるテーマを絞り込み、掘り下げた内容で議論していく。
- ・各委員は、意見用紙を利用し 2月 1日（金）までに事務局へ提出する。

[次回会議のお知らせ]

- ・第4回 定例会
【日時】1月25日（金） 午後6時30分から
【場所】太田市役所 10階 政策推進会議室
- ・第6回 第2小委員会
【日時】2月12日（火） 午後6時30分から
【場所】太田市役所 10階 政策推進会議室